毎日新聞

高座で見えた言葉の力

佐世保市少年の主張大会

落語会に向けて稽古を重ねる古川万葉さん＝佐世保市で

2024年度の「佐世保市少年の主張大会」で、市立広田中3年の古川万葉さん(14)が市長賞（最優秀賞）を受賞した。落語で培った話芸で言葉を紡ぐことの大切さを訴え、聴衆を引きつけた。【綿貫洋】

広田中・古川さんが最優秀賞

古川さんは小学2年の時、落語を習う姉の咲弥さん(22)が巧みに感情を乗せて演じる姿が楽しそうに思え、自らも習い始めた。市内在住の放送作家、海老原靖芳さん(71)の指導を受け、プロの前座として高座に上がり、数百人を前に落語を披露してきた。

自ら発した言葉で聴衆を沸かせる体験を重ね、落語が持つ「人を喜ばせる力」を感じるようになった。主張大会の原稿「話すことでしか伝わらない気持ち」では、落語を例に、タイパ（タイムパフォーマンス）がいいSNS（ネット交流サービス）より、感情を言葉に乗せて伝えること、言葉による表現力の大切さを訴えた。

大会直前に修学旅行で訪れた関西では夕食後、同級生を前に予行演習した。7月6日の本番では原稿を覚えきれずに間ができたり、緊張で舌が回らなかったりしたが、「よ！姉さん粋だね」「あたしゃ帰りだよ」と落語らしく締めくくった。会場はどよめき、拍手が渦巻いた。抑揚ある話しぶりと落ち着きが評価され、市長賞を受賞した。

市代表として23日に時津町である少年の主張県大会に出場する。古川さんは「いっぱい練習して原稿を自分のものにして、伝えたいことを100％伝えたい」と意気込む。

また、25日午後4時から同市光月町の佐世保コミュニティーセンターである「第35回佐世保かっちぇて落語会」（事務局0956・32・0888）では、プロの前座で出演予定。高校受験を控える中、夏休みも稽古を重ねている。

「高校生になっても落語は続けたい。高座に上がったらあとは楽しむだけです」。違う自分になれるので、落語の役作りを考える時間が何より楽しいという。